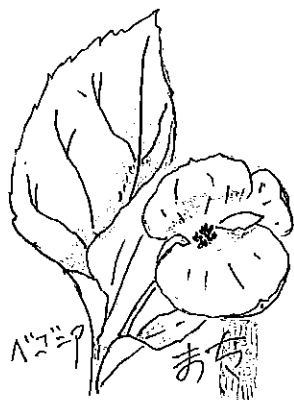


## 何のために

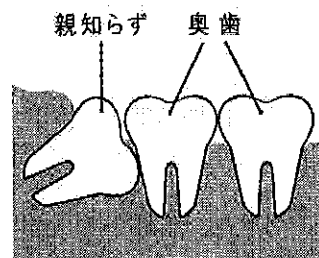


今週月曜日、部活動集会を実施しました。今まではキャプテン会議を行っていましたが、多くの部が新チームとして活動を始めるこの時期なので、入部している生徒全員を対象として、改めて部活動の意義等話し、自主的・意欲的に活動する意欲を高め、人間性の育成を図りたいという思いがあったからです。

昔よく使われていた言葉に、「厳しさも愛」があります。厳しい指導を通して、体力や精神力、礼儀や社会性を身に付けさせる。それが、部活動の大きな目的の一つでした。しかし、近年、「厳しさも愛」は受け入れられない時代になってきました。このためか、規律ある行動ができない生徒やきつい練習をさける生徒も多くなってきています。また、先生方は勤務終了以降や休日の私的な時間をさいてまで生徒に関わっているにもかかわらず、感謝の気持ちを持たない生徒も少なくないのが現状です。部活動は自ら希望して参加する活動です。かつ、自分を高めるための活動です。しかし、自分勝手は許されません。今年の体育大会の閉会式で、「今回のキーワードは“感謝”でした。」という話をしました。また、各教室に「当たり前感謝」という言葉を掲示しています。部活動においても、この“感謝”の言葉をしっかり踏まえた上で、自ら厳しい課題を課し、高い目標を持って、懸命に練習に取り組んで欲しいと思っています。

## 親不知

先日の息子との会話。「俺、“親知らず”が4本もある。歯の矯正をするけど、“親知らず”も全部抜いてもらう。」このとき、ふと頭に浮かんだのが、中学生のときに授業で出ていた“親知らず 子知らず”の話。今の新潟県の青海町の外波から市振にかけての海岸のことで、波の荒い険しい難所であったため、そこを通るときは、親は子を、子は親をかえりみる余裕もないことから命名されたとのこと。そこを通るときは命がけで、それでも通らなければならなかったという話でした。



それともう一つ、「何で“親知らず”と言うのだろうか？」という疑問。「もしかして、命がけで抜歯？」そこでさっそく調べて見ました。“親知らず”という呼び名の由来は、昔、『親が亡くなってから出てきた歯だから』とのこと。ちなみに、“智歯”とも言うそうで、これは『成人になって、知恵がついてから出てくる歯だから』だそうです。

ところで、この“親知らず”、ちょっと気になる言葉でもあります。少子化、核家族化が進んだ現代、昔と違って、親が子どもに手厚く接するのが当然になっています。車での送迎や部活動等の支援・応援はその最たるもので、親が子にかかる時間や手間は確実に多くなっています。かといって、親が子のことを十分に把握しきれているかということ・・・？・・・です。昔以上に“親知らず”の時間や空間が多くなっています。親の務めは子どもを見守ること。当然全てを見ることは不可能ですが、必ず守り育てなければなりません。少なくとも何かあったとき、知らなかったでは済まされないのです。そのために何が必要か。それが今、問われているような気がします。